

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

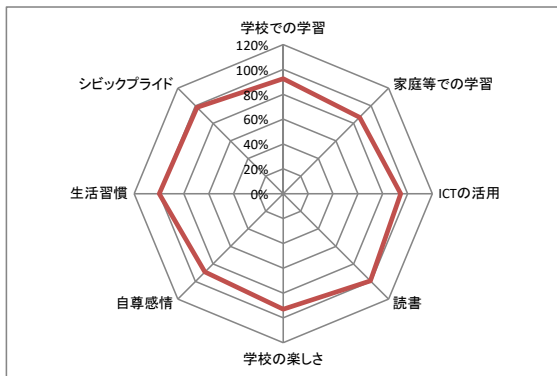
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 「情報の扱い方に関する事項」に関して、原因と結果など情報と情報との関係を正しく理解することができている。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、漢字の正しい送り仮名を選択することはできるが、文の中の正しい漢字を書くことができていない。また、日常よく使われる敬語についての理解度が低い。 「書くこと」に関しては、条件を満たさない回答や無回答が見られる。 	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 文の中で使われている漢字の正しい送り仮名を選ぶことができるかをみる問題 		
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題 		

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 「数と計算」と「数量の変化と関係」についてはよく理解することができている。「図形」では、示された図形が何かについて正しく回答しているが、判断の理由や図形の性質を使って答える問題への誤答が見られる。形だけを見て図形の判別をしていると考えられる。 考えを記述する問題については、内容が不十分な回答や条件を満たしていない回答が多く見られた。 	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> テープを折ったり切ったりしてきた四角形の種類を答えることができるかどうかをみる問題 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取るることができるかどうかをみる問題 		
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できているかどうかをみる問題 		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「授業では各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるか」の問いに肯定的な回答をしている児童数が全国の結果を上回っている。 「授業で学んだことをほかの学習に生かしているか」「総合的な学習の時間では自分で課題を立て、情報の収集整理をし、調べたことを発表する活動に取り組んでいるか」の問いに肯定的な回答をしている児童数が全国の結果を大きく下回っている。既習内容の活用と他教科間のつながりを意識した教材研究、総合的な学習の時間の授業改善をする必要がある。 「学校以外での1日当たり1時間以上の勉強をしているか」の問いに肯定的な回答をしている児童数が全国の結果を大きく下回っている。 「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の問いに肯定的な回答をしている児童数が全国の結果を上回っている。 「自分にはよいところがあると思うか」「先生は、あなたのように認めてくれていてと思うか」の問いに肯定的な回答をしている児童数が全国の結果を大きく下回っている。学級活動等で対人スキルアップの学習に取り組み、まず自分のよさに気付く活動を行う。その上で、特別な行いに加え、当たり前の行動についても価値付け認めていく指導を行うことで、自尊感情を高めていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語・算数ともに、条件に合わせて自分の考えを書くことに課題が見られる。授業の中で計画的に書く活動を位置付けるようにし、児童の実態に応じて条件を設定していくようにする。また、漢字や敬語、図形の性質など既習内容の定着を図る。
 ・学習で得た知識や技能を、他教科の学習や生活場面で生かす経験ができるように、広い視野で教材研究を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「北九州市子どもつながりプログラム」等を活用し、自分や友達によさに気付くことができるような活動に取り組ませる。さらに児童の実態に応じて「当たり前の行動」にも価値を見だし、価値付けていくようにする。
 ・自主学習等の取組を学級通信等で紹介することで価値付けと啓発を行い、家庭学習への意識と意欲を高めるようにする。